

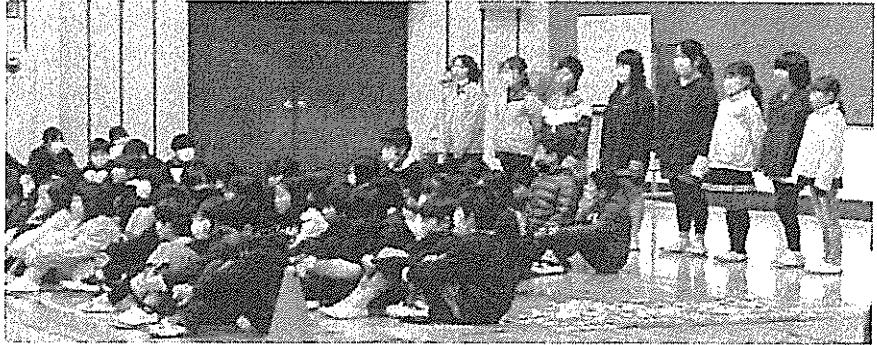


ききよう



人権月間 4年ぶりの集会

11月28日、『ぼっかぼか集会』を開催しました。11月初旬より各学級・学年で人権について取り組んだことを体育館で紹介し合いました。全校児童がフロアを中心に向かって行われた集会では、「〇〇することはいじめになります。」「『△△や□□』といった言葉はチクチク言葉といって相手を傷つけます。」など、具体的に



人として在るべき姿を発表する学年が多くありました。低中学年はその場からの発信となりましたが、6年生だけは異なる方法をとりました。全校児童をステージ側に向かせ、ステージ上で寸劇をやってみせました。ある教室を舞台にして、日常で起こりそうな場面を設定し、どんな言動が人を傷つけるのか等について考えさせてくれる内容を、松・竹どちらの学級も工夫を凝らして演技しました。

振り返ってみると、北小学校には毎年この時期にこんな風景があったのです。コロナと出会うまでは…しかし、この3年はそのような場を奪われていました。動画の発表を各教室で見合うといった新しい方法が生み出されましたが、やはり4年ぶりの集会は、全校児童が一堂に会して実施することの意義を感じ、この季節の寒さを忘れさせてくれ、心あたたまる場となりました。集会は、手話を交えた歌をみんなで歌うプログラムで幕を閉じました。10年近く前には、全校児童で二重円を作って、手話ではなくダンスをしながら体で表現する場面もあったなあ…と、懐かしい思いにも浸らせてくれました。

さて、なぜこの季節にこの集会を…についてですが、終戦3年後の1948年12月10日に国際連合が「世界人権宣言」を採択し、2年後にこの日を「人権デー」と定め、各国に人権思想啓発のための行事を実施するように呼びかけたのがきっかけとされています。世界を巻き込んだ大戦では、特定の人種の迫害、大量虐殺など、人権侵害、人権抑圧が横行し、人権問題は国際社会全体にかかわる問題であり、人権の保障が世界平和の基礎であるという考え方が主流になりました。75年も昔のことですが、今もヨーロッパや中東では戦争の犠牲になり、大人も子どもも戦禍の



なかで人間らしい暮らしができていない現実もあります。そう考えると現代においても、日常の身近な人権を考えながらも遠い世界に視野を広げて世界全体の平和について考える必要を感じます。平和に新しい年が迎えられる幸せな国に居ながら、不安な生活を余儀なくされる人々に、1日も早く平和が訪れてほしいと願います。みなさま、どうぞよいお年をお迎えください。

1月 学校行事予定

9日 (火)	始業式	21日 (日)	家読の日
10日 (水)	給食開始 学年費口座振替 (5,6年)	24日 (水)	クラブ活動 給食週間 (~30日)
15日 (月)	避難訓練 (原子力防災)	25日 (木)	6年スキー教室
17日 (水)	委員会活動	31日 (水)	湖西中入学説明会
19日 (金)	入学説明会		

※ 積雪の季節を迎えます。子どもたちの登下校については十分に気をつけるよう声かけをお願いします。また、体育館付近は落雪により通行ができなくなる日も多くなります。昨年は、プール南西側の通行ができない日もありました。さくら園下の斜面をはじめ、駐車スペースも制限されてしまいます。ご迷惑をおかけします。

子どもたちのスマホ事情

12月7日に湖西中学校区学校保健委員会を開催しました。学校・園の職員、PTA役員、学校医・歯科医や薬剤師、市役所健康推進課職員などの関係者が集まり、毎年開催しているものです。新旭の児童・生徒の健康面(体格、病気・歯の健康状態、視力・健康診断の結果…など)について知り、子どもたちをとりまく状況や今後の対策について話し合っています。今年は「スマホ・ゲームとのつきあい方」をテーマにして意見を出し合いました。夏には、小学5年生～中学3年生を対象にアンケートを実施しました。その結果をもとに考察し、子どもの様子で気になることを出し合いました。

アンケートの結果ですが、スマートフォン(以下スマホ)を使用している子の割合は、77%にのぼります。スマホをはじめ自分専用の機器を使用する割合は81%、兄弟姉妹との共用を含めると、94%になります。また、平日の機器使用時間は、2時間以上が54%、休日になると36%もの子が4時間以上と答えました。また、スマホ・ゲームの依存度について8つのチェックリストを設けて答えてもらったところ、「自分はスマホやゲームに夢中になっていると感じる」が72%、「使い始めに予定した時間よりも長い時間スマホやゲームを使うことがある」が54%と、高い値を示しました。これは自制できないことを自覚しながらも使い続けてしまうといった怖い結果を表しています。アンケートの結果は、「学校保健委員会だより」で改めてお知らせする予定です。

9月にスマホに関する講演を聴きました。その際に配付された資料から紹介させていただきます。

●アメリカの児童精神科医 V.L.ダングレーは、「電子スクリーン(スマホやゲーム機、タブレットやパソコン、TV など)は子どもに様々な影響を与え子どもの脳と心、社会性の育ちを阻害する」と考え、その使用によって起こる様々な症状を「電子スクリーン症候群」(ESS)と名付けました。『電子スクリーン』からはたくさんの情報が流れてきますが、人間の脳にとって、それらの情報は「多過ぎる」のです。そのため、情報を処理しきれなくなった脳は常に「緊急事態」のアラームを発しているような状態になります。子どもの脳は刺激に弱く、強い刺激は優先順位をおかしくする「依存症」を引き起こします。我慢するための脳の機能は、20～30代にかけて完成すると言われており、10代はまだ機能が弱く、依存症になる可能性が高いのです。

●スマホやゲームは、人の脳を虜にします。ゲームやアプリなどは人の関心を引き付けるための様々な工夫がされています。そのため、「やめられない」脳の仕組みができあがってしまうのです。特にゲームやアプリなどで「自分が何か操作すると反応があるもの」には、私たちは心理的に巻き込まれやすくなっています。「もっと勝てるようになりたい」「もっとうまくなりたい」「もっと(相手の)反応が欲しい」…。「もっと、もっと」と思い、すればするほど止められなくなり、もっと強い刺激、もっと多くの刺激を求めるようになり、「やめられない」脳になってしまうのです。【ESSリセット研究会作成から抜粋】

地域のみなさまに支えられています ～北小希望の会～

第6号(9月4日発行)でもお知らせしていますが、学校支援ボランティア『北小 希望の会』のみなさまには、マラソンの見守りや豆腐づくりなどの調理実習、ミシンを使った学習、昼休みの九九道場など、2学期後半にもたくさんの支援をいただきました。学習の支援はもちろんですが、子どもたちが家族や学校職員以外の大人とのかかわりが持てることに大きな意義を感じています。

今年度は、金曜日の昼休みの時間帯(12:50～13:20)に『のぞみひろば』を開催しています。けん玉・ヨーヨー・オセロ・将棋・UNOなど、子どもたちが地域のみなさんと楽しい時間を過ごしています。遊びをともにするだけではありません。その他の時間にも、心身の調子がよくない子どもの話し相手になってくださっている場面もあります。これらの活動に参加してくださるみなさんは、保護者世代よりも上の年代の方が大半ですが



2学期からは、保護者の参加も増えています。「のぞみルーム」(保健室東隣)が、保護者や地域住民のみなさまの集える場となりつつあることをうれしく感じています。どうかお気軽におこしいたごき、「できる人が できる時に できることを」の趣旨に賛同して「希望の会」の仲間になっていただくことを期待しています。



体育館への渡り廊下・落雪対策(雪囲い)